

ちば経済フラッシュ

「ちば経済フラッシュ」は3、6、9、12月号に掲載します

千葉県経済の動き — 中小企業動向を中心に —

概況

県内経済は、全体としては緩やかに回復しているが、個人消費の回復に力強さが戻らず、回復実感に乏しい状態が続いている。

こうした動きは、千葉経済センターの「千葉県企業経営動向調査」(06年12月実施)で、06年10～12月期の全産業の業況判断BSIが〇・九と前回比わずか+〇・三の改善にとどまったことから読み取れる。

県内小売業の年末年始の商戦は、百貨店のおせち料理や初売りセールなどに限っては盛況だったものの、暖冬の影響や年明け後の最初の三連休での天候要因などから主力の防寒衣料や婦人服が不調。コンビニ、自動車販売、家電販売、ホームセンター、家具などの売り上げも弱含みとの声が聞かれるなど、全般的に伸び悩んだ。

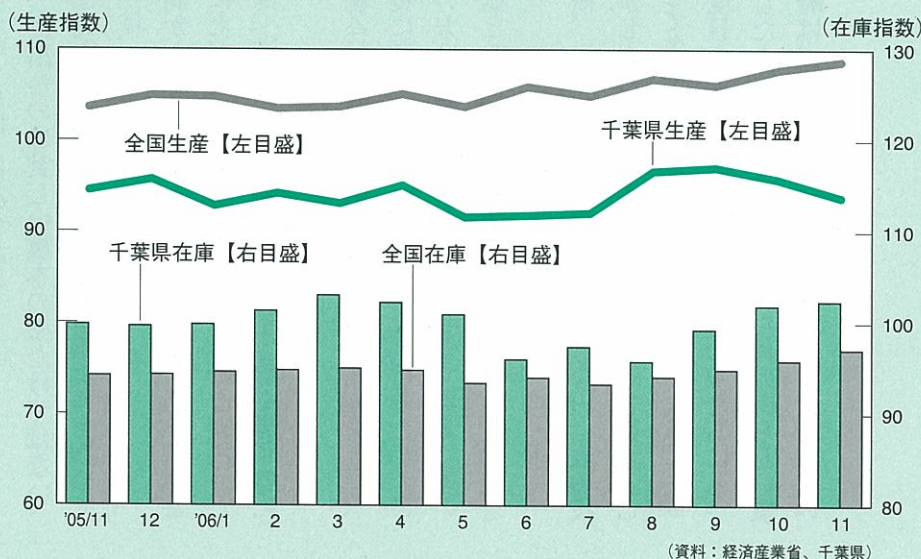
県内新設住宅着工戸数のここ三か月(9～11月)は、前年同期比+一・五%と微増にとどまり、これまでの勢い(06年4～8月合計の前年同期比+十七・七%増)がやや弱まった。同期間中の分譲マンションは同+十七・八%と増加が続くも、持家(注文住宅)が同+三・六%減少、分譲戸建も同+十六・七%減少した。一方、06年10～12月期の公共工事請負金額は、成田空港関連の大型工事が寄与したため、4四半期ぶりに前年同期を上回ったが、06年4～12月累計では前年同期比+九・八%と、基調としてはマイナスがが続いている。

千葉県鉱工業生産指数は、情報通信機械工業、電子部品・デバイス工業などを中心に四か月連続で上昇が続いていたが、10月は五か月ぶりに低下した(7月九二・一→8月九六・七→9月九七・一→10月九五・八)。06年度設備投資計画額(06年12月調査)は、全産業で05年度実績比+一・八%増加した。製造業中小企業では期初計画比+四五・六%と大幅な上方修正となった(千葉県企業経営動向調査)。

雇用面では、千葉県の有効求人倍率(季調値)は10月が〇・八七倍と前月(〇・八八倍)比わずかに悪化した。11月は〇・九一倍と改善した。11月の新規求人数は大型小売店の開店の影響などでパートタイマーが前月比+十四・七%と大幅に増加した。

(酒井)

■ 鉱工業生産・在庫指数 (季節調整済、2000年=100)



消費関連

県内小売業の年末年始の商戦は、暖冬の影響もあり消費マインドが盛り上がり、全般的に伸び悩んだ。

すなわち、県内百貨店の06年10～12月期の売り上げは、暖冬の影響による主力の冬物ファッションの不振に加え、05年10月の千葉ロッテマリーンズ優勝セールによる底上げの反動減もあって、2四半期ぶりに前年を下回った。家電販売も、薄型テレビなどは好調ながら、エアコンなどの白物家電が不

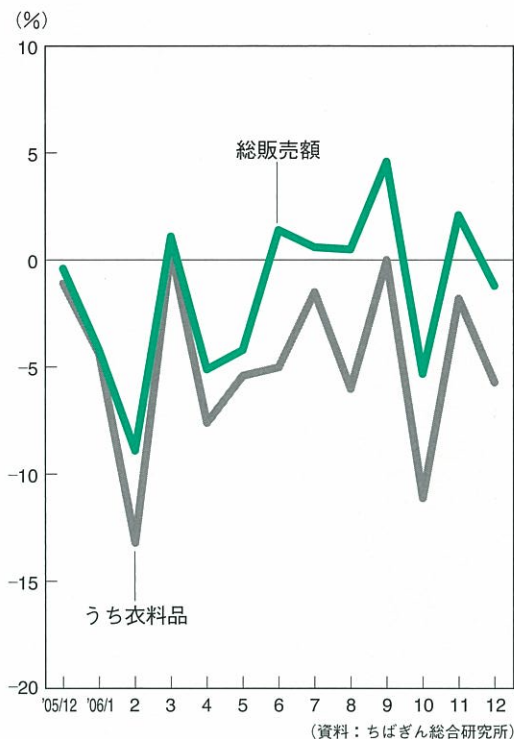
振で、全体としては前年実績に届かなかった。ホームセンターも、

暖房器具などの季節商品の落ち込みが響いて前年割れとなった。自

動車販売も、軽・高級車増加の基調が続く中、普通乗用車の販売伸び悩みが響き、3四半期連続でわずかながら前年実績を下回った。

一方、コンビニ売上は、飲料販売などが好調推移し前年実績を確保した。旅行販売も、国内旅行中心に前年実績を上回った。南房総地域では、観光施設で入場者数が前年を上回った先や、宿泊施設でも宿泊者数が前年比微増となるなど堅調な動きが見られた。(関)

■千葉県百貨店販売額伸び率 (対前年同月比)



食料品

りも市況を反映させる制度となったため、小麦価格の上昇を懸念する声も聞かれた。

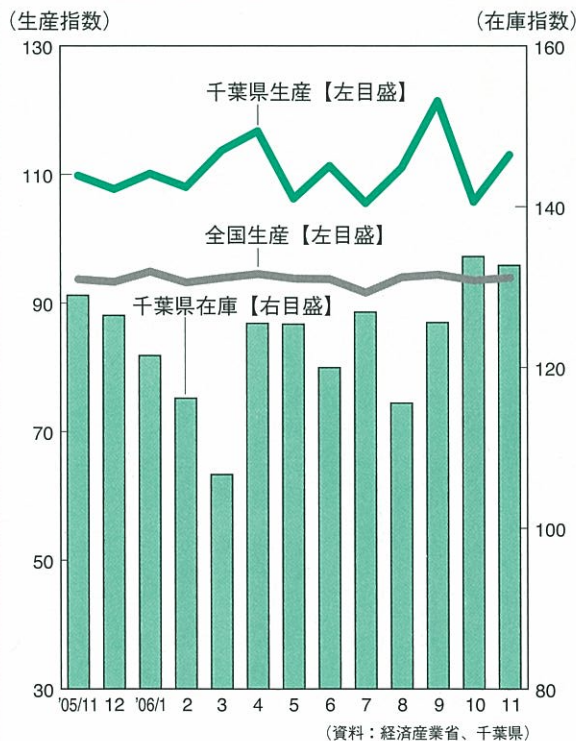
一方、8月末に福岡県で発生し

県内食料品メーカーの10～12月期の生産BSIは、前期比改善したが、水準的には4四半期連続で「減少」超となった(06年4～6月期▲四・九→7～9月期▲九・七→10～12月期▲四・六)。収益BSIも、砂糖や食用油、大豆などの原材料費が高騰したことなどを映じて、引き続き「減少」超となった(06年4～6月期▲六・一→7～9月期▲十五・六→10～12月期▲一〇・三)。11月には輸入小麦価格の制度も変更し、従来よ

た飲酒ひき逃げ死亡事故をきっかけに、飲酒運転の厳罰化の流れが進んだ。そのため、9月以降外食産業でのアルコール販売量が減少、県内でもビール工場や県酒類販売業者で業務用ビール、焼酎、清酒などの出荷量が前年比一割程度落ち込むなど影響が広がっている。

食料品業界は総じて厳しい収益環境にあるものの、一部には、設備投資や新技術導入で生産性が向上した先や、新商品開発が売上増加に結びついた企業も見られた。(喜屋)

■食料品の生産・在庫指数
(季節調整済、2000年=100)



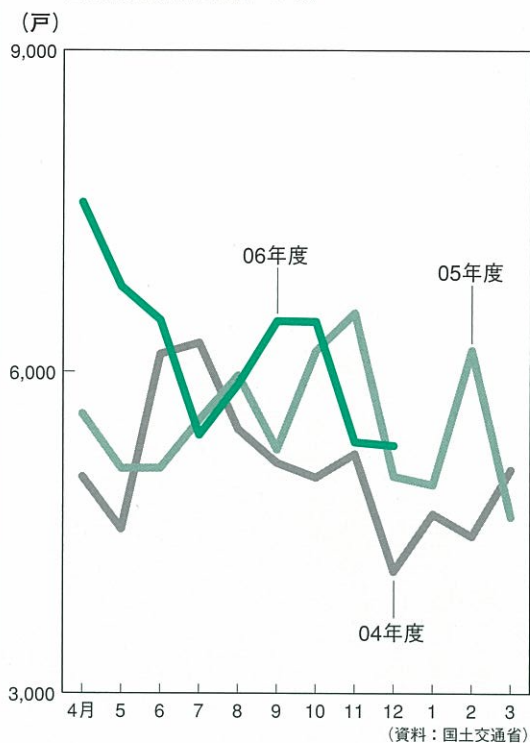
住宅・建設

県内の新設住宅着工戸数は、10月が前年同月比+4・四%増加、11月が同▲十八・四%減少、直近三か月（9～11月期）では前年同期比+一・五%の微増にとどまり、年度初来の勢い（06年4～8月累計三万二四九戸、前年同期比+十七・七%増）が弱まった。同期間中の分譲マンションは同+十七・八%と増加が続いたが、持家（注文住宅）が同▲三・六%減少、分譲戸建も同▲十六・七%減少。今後については、大幅な落ち

込みはないものの現在がピークと
の見方が多い。一方、非居住用建
物では、物流倉庫の需要が高い。
地域別には、船橋、柏、野田、佐
倉など高速道路へのアクセスの良
い場所が人気。
10～12月期の県内公共工事請負
金額は、前年同期比+五・六%と
3四半期ぶりに増加。これは、成
田空港関連の大型工事があったた
めで、06年4～12月累計では前年
同期比▲九・八%と、基調として
はマイナスが続いている。発注者
別に見ると、地方公社（前年同期
比▲六八・七%、国（同▲二〇・
三%）などが大きく減少した。

（酒井）

■千葉県新設住宅着工戸数



機械

県内電気機械メーカーの06年10
～12月期の生産B S Iは、〇・〇
と7～9月期（十八・二）比悪化
したが、高い水準での横ばいとの
見方が多い。一方、販売価格B S
Iは▲十八・二と十六業種中もつ
とも悪く、4四半期連続で「低
下」超となっている。販売価格低
迷は最終製品である薄型テレビ、
携帯電話、ゲーム機などのシェア
争いに伴う低価格競争が原因と見
られている。

07年1～3月期の生産見通しB

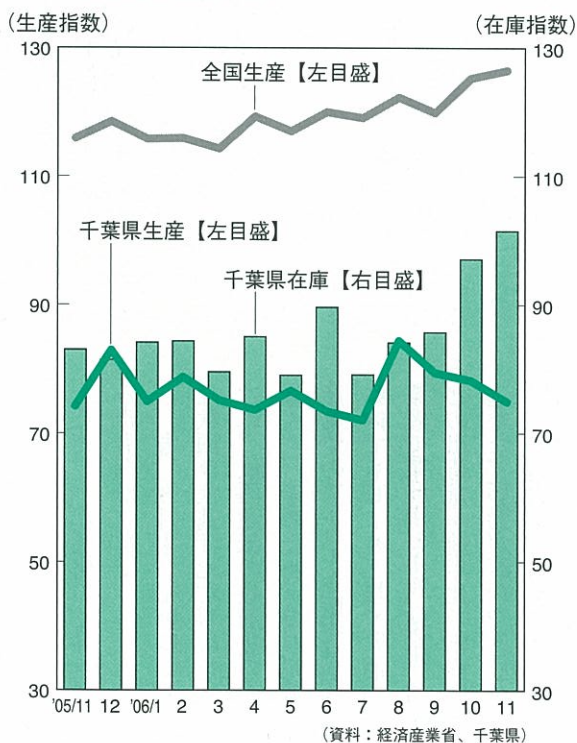
（酒井）

S Iは十三・七と再び二ケタのプ
ラスを見込んでおり、生産好調・
販売価格低迷の動きは今後も続く
と見られている。

県内一般・精密機械の10～12月
期生産B S Iは▲一〇・〇と2四
半期連続で悪化。土木工事に使用
される掘削機メーカーやトラッ
ク・自動車の部品を製造している
企業の生産が低迷している一方、
印刷機メーカー、海外向け建設機
械製造などは好調が続く。また、
一部の企業では国内需要の伸びが
期待できないことから、販路を海
外市場に求める動きも見られる。

■機械の生産・在庫指数

（季節調整済、2000年=100）



ITソフト

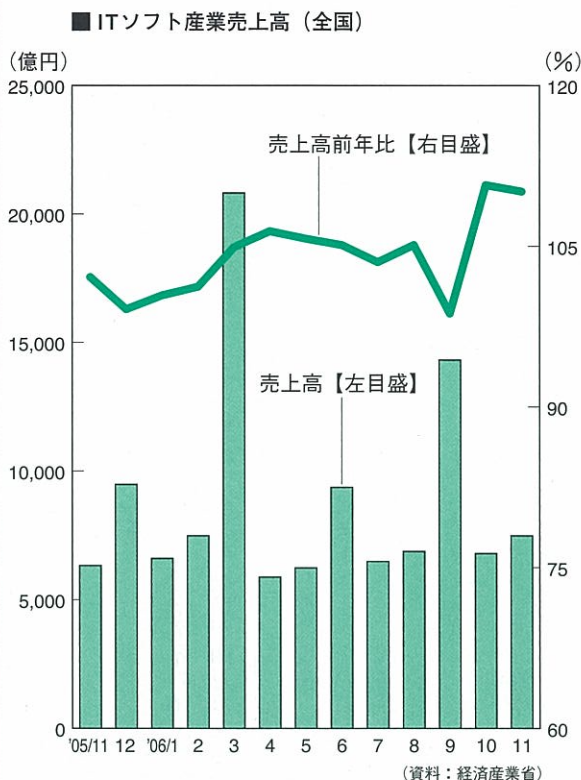
情報サービス業（全国）の売り

上げは、06年9月に通信業向けの受注ソフトウェアが一時的に減少して九か月ぶりに前年同月を下回ったが、10月には前年実績を大幅に上回った（前年同月比…9月▲一・三％、10月＋一〇・七％）。主力の金融機関向けシステム開発の受注が好調なことに加えて、ゲーム市場の活況でソフト受注が前年同月比約二倍に増加した。

県内IT関連業界では、人手不足が慢性化し、募集しても人が集

まらない状況が続いている。年間を通じて一〇名を中途採用したが、同数離職者も出たため、結果的にはその穴を埋めたただけだったという話も聞かれた。また新卒採用で三〜四人内定を出しても、その後すぐに辞退されてしまうという例も後を絶たず、人材不足から受注を断らざるをえないケースも出てきている。IT業界を志望する学生には、一人当たり三〜四社の内定が集中する売り手市場となっているだけに、県内企業で内定を出しても、処遇面等の条件が良い都内の会社へ集中する傾向が強いとの声が聞かれる。

（嘉藤）



窯業・土石

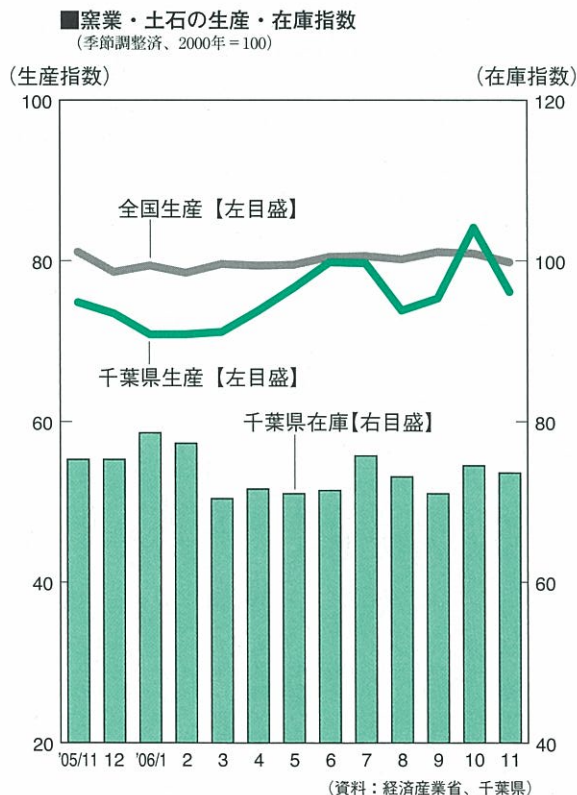
県内の主要協同組合（北部・西部・中央）の10〜12月期の生コン出荷量は、三地域合計で前年同期比＋十二・二％増と11四半期連続で前年を上回った。

千葉中央協同組合（千葉・市原・袖ヶ浦）の10〜12月期の出荷量は、前年同期比＋三二・二％と大幅増加。千葉みなと駅周辺等、千葉市内のマンション建設が引き続き盛んなほか、大手鉄鋼メーカーのプラント建設需要も堅調に推移。

千葉西部協同組合（浦安・市

川・船橋など）の10〜12月期の出荷量は、前年同期比＋七・九％増加。地域別に見ると、総武線以东（八千代・白井など）の地域が好調。しかし、07年度は、従来好調だった海側の大型マンション建設がピークを過ぎたこともあり、06年度を若干下回る見通し。

千葉北部協同組合（柏・松戸・野田など）の10〜12月期の出荷量は、前年同期比＋四・六％増加。TX沿線のマンションや商業施設などの建設が盛んなこともあり、06年度の総出荷量は約八九万㎡と、既往ピークの02年度の水準（八八万㎡）を上回る見込み。（酒井）



鉄鋼 石油・化学

鉄鋼

06年10～12月期の県内高炉メーカー二社（新日本製鐵、JFEスチール）の粗鋼生産量は、世界規模の鋼材需要増を映じて、既往最高水準の操業が続いた。

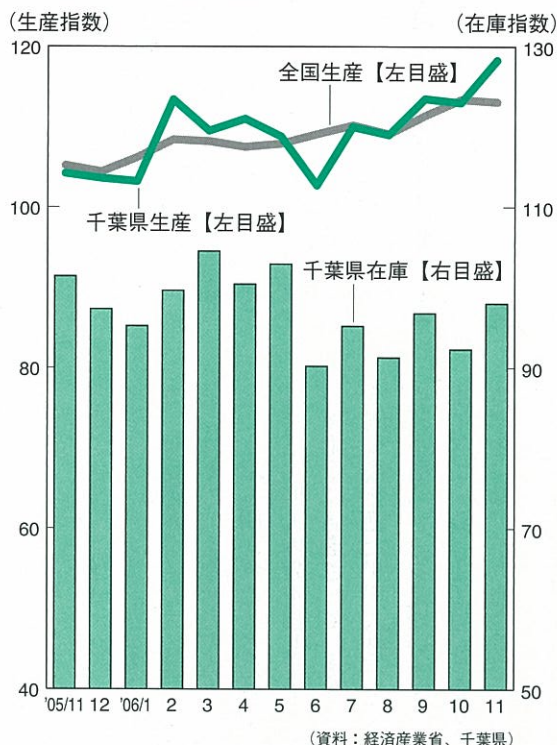
一方、県内の中小鉄鋼・非鉄金属メーカーの生産は、国内の需要低迷から弱含みの動きが続いている。供給過剰感の強まりから一部の製品を除いて、市況の落ち込みが続く、収益の先行き悪化を懸念する向きが多い（収益B S I…10

12月▲四・六↓1～3月見通し
▲十八・二）
（関）
石油・化学

県内石油・化学業界の10～12月期は、ナフサ価格が四万八〇〇〇円／klと五万四二〇〇円／klまで高騰した7～9月期比反落。そのため、原料メーカーからの値上げ要請も一服。しかし、価格は依然高水準にあるため、販売価格への転嫁が未済の中小加工メーカーにとっては、引き続き販売価格への転嫁が必須の状況。県内石油・化学の10～12月期業況B S Iは価格転嫁を行いやすい大手を中心に回復し、十三・〇と7～9月期（三・九）比改善した。（酒井）

鉄鋼業の生産・在庫指数

（季節調整済、2000年=100）



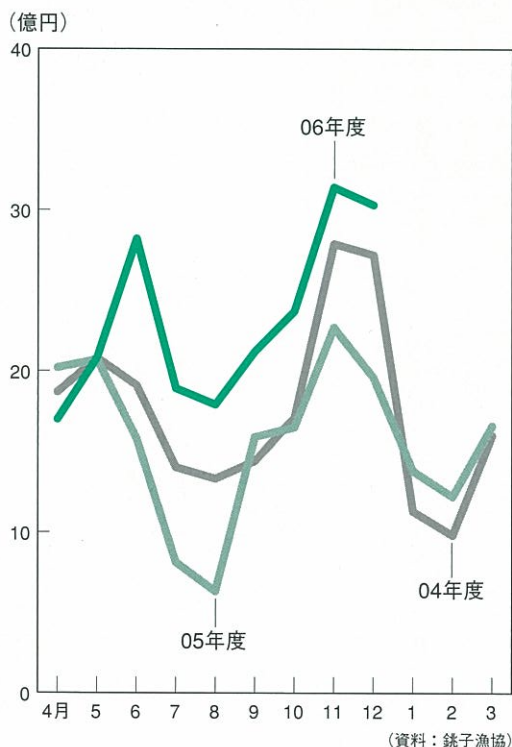
農業・漁業

農業

06年10～11月の千葉県産主要野菜一〇品目の東京中央卸売市場への出荷は、数量が三万八八八八tで前年同期比+一〇・〇％増加したが、平均単価が二〇七円／kgと同▲一〇・五％下落したため、出荷金額は約三六億円と同▲五・三％減少した。

7～9月期の野菜不足から一転し、10月以降は好天と温暖な気候が続いたため、ダイコン、キャベツなど冬野菜が豊作となり、出荷が集中して平均単価が下落した。（嘉藤）

銚子漁港の水揚げ額



漁業

銚子漁港の10～12月期の水揚げ状況は、数量（八万二五二七t…前年同期比+二五・〇％）は3四半期連続、金額（八五・四億円…同+四五・三％）も4四半期連続で前年を上回った。年間を通して豊漁で、銚子漁港の06年の水揚げ量は二六万一千四六一t（05年比+二一・五％）と、二位の静岡・焼津港（二〇万八九九七t）を引き離し、五年ぶりに日本一となった。06年の水揚げ高は全国六位、二五二億円と五年ぶりに二五〇億円を突破した。一方、県産ノリは暖冬で水温が下がらなかったため、生産枚数が前年同期比約六〇％減少した。（嘉藤）

雇用

千葉県の有効求人倍率(季調値)

は、10月〇・八七倍、11月〇・九一倍と改善した(06年1～3月期…〇・八七倍→4～6月期…〇・九二倍→7～9月期…〇・九一倍)。

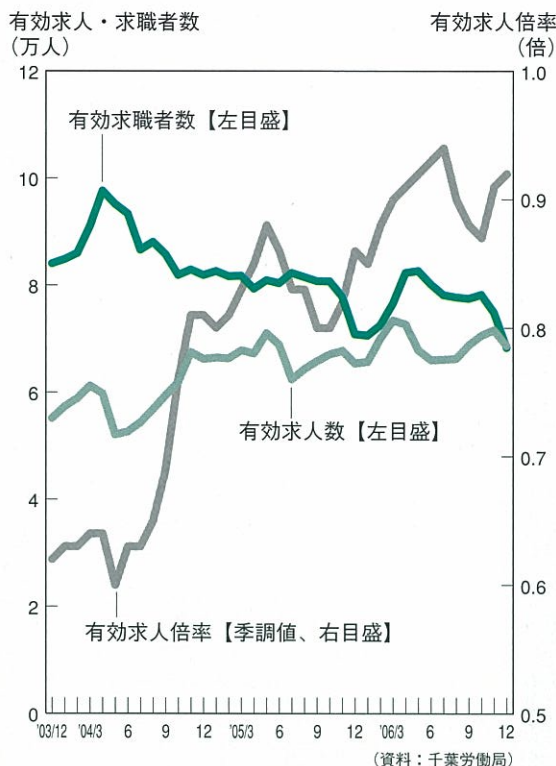
足元の求人情動を示す新規有効求人数(同)の推移を見ても、10月は前月比▲三・〇%と一時的に減少したものの、11月には同+四・〇%と増加した。11月の増加は大型商業施設「ららぽーと柏の葉」がオープンした影響で、パ

トの求人数が前月比+十四・七%(同)と大幅に増加したことによるもの。TX沿線では、07年春にも「流山おおたかの森」に大型SCの開設を控えており、今後も小売りや飲食店中心にパート・アルバイトの採用難が続く見込み。

ITソフト業界でも、人数が増えないかぎり売上高は増えないのが共通の悩みとなっており、募集しても人が集まらない状況が続いている。

一方、県内人材派遣会社では、派遣社員を募集しても集まりが悪く、派遣社員の時給単価を平均で五〇～一〇〇円引き上げる動きにあるという。(嘉藤)

■千葉県内労働需給状況



企業経営 動向調査(BSI)

06年10～12月期の県内企業の業

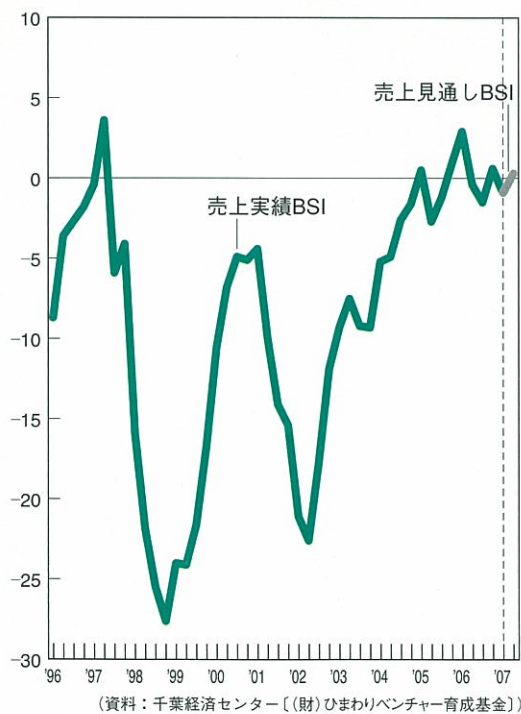
況判断BSI(全産業)は〇・九と、前回(7～9月期)比+〇・三改善し、2四半期連続の「好転」超となった。このうち製造業は四・二と前回比(+三・九)大きく改善したが、非製造業は▲三・一と前回比(▲四・〇)大幅に悪化し、製造業と非製造業の回復テンポに大きな格差が生じた。製造業では大企業、中小企業とも改善しているのに対し、非製造業では大企業、中小企業とも悪化しており、

非製造業のもたつきが気になる。全産業の先行き(07年1～3月期)は▲四・三と実績比▲五・二悪化見込み。十六業種中十三業種が「悪化」超を見込んでいる。

売上BSI(全産業)は▲〇・九(前回比▲一・五)と再び「悪化」超となった。製造業は二・三(同+一・五)と6四半期連続の「増加」超となったが、非製造業は▲四・六(同▲五・二)と2四半期ぶりに悪化した。

06年度設備投資計画額(全産業)は、05年度実績額比+一・八%の小幅増加となった。製造業は同▲二二・一%減少したが、非製造業は同+二三・九%増加した。(嘉藤)

■企業経営動向調査 売上実績・見通しBSIの推移



注) 売上実績BSI=(「増加」-「減少」)÷2